

INWES APNN Meeting¹ in ニュージーランド (ウェリントン) 報告

■ 大会概要

- ◆ 日 時：2016年8月18(木)・19(金)日
- ◆ 開催場所：第一日目；IPENZ National Office
第二日目；Museum of New Zealand Te Papa Tongarewa (Te Papa)
- ◆ 開催事務局：IPENZ (ニュージーランドの技術士会)
- ◆ 活動報告国：オーストラリア、韓国、台湾、チベット、マレーシア、フィリピン、モンゴル、日本
- ◆ 参加者：第一日目 全体；23名(日本 7名、台湾4名、韓国4名、オーストラリア2名、マレーシア1名、チベット1名、フィリピン1名、ニュージーランド2名、米国1名)
第二日目 全体；約170名 日本；3名
- ◆ 内 容：第一日目はCountry reportとして、参加国の代表者から各国の次世代女性科学者・エンジニアの育成やキャリア形成の問題点について報告があり、活発な議論が行われた。



第1日目 主催者スピーチ



Country report 発表

第二日目は Diversity in Action Summit として、以下の4つの基調講演とパネルディスカッションが行われた。

「How diversity improves the bottom line」

「Developing inclusive reward strategies and solutions」

「A strategic framework for inclusiveness wellbeing and diversity in engineering workplaces」

「Should we fix the leaky pipeline?」



第2日目 基調講演



パネルディスカッション

■ 大会参加報告

文責 沼澤 朋子（団体会員：JSPEW）

私は、ニュージーランドのウエリントンで行われた 2016 INWES APNN Meeting に参加させていただき、第一日目には日本の Country Report を報告し、第二日目は、聴講させていただきました。

Country report では、各参加国の代表者による 2015 年度の次世代女性科学者・エンジニアの育成の活動報告やキャリア形成の問題点について報告があり、活発な議論が行われました。日本からは、INWES-Japan : INWES の日本支部が NPO 化を認許され、NPO JNWES（特定非営利活動法人 日本女性 技術者科学者ネットワーク）となったことや、理系女子中高生のための夏学への参加などを報告しました。



第一日目 集合写真



第一日目 発表の様子



第二日目 会場の様子



どの国のアンケートデータでも、女性の家事の負担が多く、おおよそ、半数の女性が家事の多さに不満を感じています。しかし、男性の労働時間が長いという理由で女性の負担が多くなるのは、韓国と日本のみの現象であることがわかりました。

第二日目の基調講演とパネルディスカッションでは、参加者のプレゼンテーションがパワフルなことにも驚きましたが、講演と参加者のディスカッションの時間が同じくらいであり、内容が濃く感じました。

オーストラリア代表として、Country report 報告し、基調講演者も務めた Kanga さんは、二人のお子さんを育てつつ、博士課程をとり、起業もしています。講演の合間のティータイムでも気軽に会話に応じいただき、育児と勉強・企業を夢中でこなしたことや、ご両親の Kanga さんへの教育思想なども伺いました。

実は、APNN Meeting 参加国の中でも（その他の文部科学省の統計でも）、科学者における女性の比率やエンジニアにおける女性の比率は日本が最下位であり、危機感を感じています。

来年は横浜で、このレポートで報告した INWES APNN Meeting が行われます。SJWS（女性科学者の会）、JWEF（日本女性技術者フォーラム）、JSPEW（日本女性技術士の会）、チーム・技魔女〔日立グループの女性の技術士で構成〕で力を合わせ、会議を成功させたいと思っています。

¹ INWES APNN Meeting : 技術分野をまたいだ国際的な女性の技術者・科学者のネットワーク（INWES : International Network of Women Engineers and Scientists）のうち、環太平洋地区の会合